

芽吹き屋 presents

第 10 回盛岡市アイスリンクメモリアルカップ男子の部 総括

1. 本総括の目的

芽吹き屋 presents 第 10 回盛岡市アイスリンクメモリアルカップ男子の部は、6 月 27 日・28 日の 2 日間にわたり開催され、全日程を終了した。

本資料は、男子の部の開催結果、参加選手アンケートの結果、運営上の成果と課題を整理し、女子の部および来年度以降の大会運営改善につなげることを目的とするものである。

なお、本アンケートは、大会運営改善を目的として、出場選手を対象に実施したものである。回答数は 23 件であり、出場選手 26 名に対する回答率は 88.5%であった。

2. 本大会の位置付け

盛岡市アイスリンクは、カーリング専用シートを備えた施設として供用開始され、盛岡地域におけるカーリング競技の普及と競技力向上の双方にとって、大きな基盤となってきた。

本大会は、盛岡市アイスリンクの開業を記念して始まった大会であるが、単なるクラブ内行事や親睦大会ではなく、県外を含む競技志向のチームを盛岡に迎え、競技力向上につながる大会として継続してきたものである。

その意味で、本大会は、盛岡におけるカーリング競技の「普及」と「強化」の両立を目指す中で、とりわけ強化の側面を担う大会として位置付けられる。

一方で、ワールドカーリングツアーの共通のフォーマットとしての賞金を伴う大会であることや、参加費が比較的高額であることについては、内外にさまざまな受け止めがあることも承知している。

ただし、本大会は競技参加費だけでなく、レセプション、食事、賞金、ライブ配信、記録管理、表彰、参加チームとの交流機会等を含めた、いわばオールインクルーシブ型の大会として設計している。

これは、単に試合を行うだけではなく、盛岡に来ていただいたチームに競技面・交流面の双方で満足していただき、継続的に参加してもらえる大会とするためである。

今回実施した選手対象のアンケートでは、大会全体の満足度、お弁当やお料理、来年度の参加意向等について、概ね高い評価が得られた。

このことから、少なくとも参加選手の受け止めとしては、競技と懇親を組み合わせた現在の大会設計について、一定の評価が得られたものと考えられる。

3. 開催結果

今大会の男子の部は、6 チームによる総当たり戦として実施した。

最終順位は以下のとおりである。

優勝 チーム斎藤

準優勝 Team OGIHARA

第3位 RockStars

第4位 KIKUCHI

第5位 石の上にも3エンド

第6位 SPARKLEs

当初は、ワールドカーリングツアーのポイント付与対象大会として成立することを目指して参加チームを募集し、一時は必要チーム数に到達した。しかし、その後のキャンセル等により、最終的にはポイント付与対象大会としての要件を満たすことができなかった。

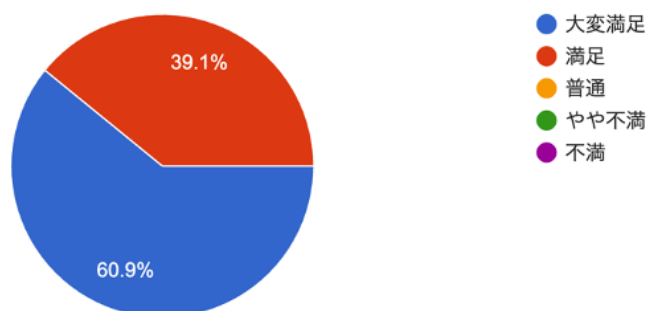
この点は、本大会の競技的価値や参加チームへの訴求力に関わる重要な課題であり、来年度以降に向けて真摯に総括する必要がある。

一方で、ポイント付与対象大会としては成立しない状況となった中でも、参加チームの理解と協力を得て、6 チーム総当たり戦として競技機会を確保し、第10回大会の男子の部として大会を成立させることができた。

4. アンケート結果の概要

4-1. 大会全体の満足度

大会全体の満足度については、「大変満足」14 件、「満足」9 件であり、回答者全員から肯定的な評価が得られた。

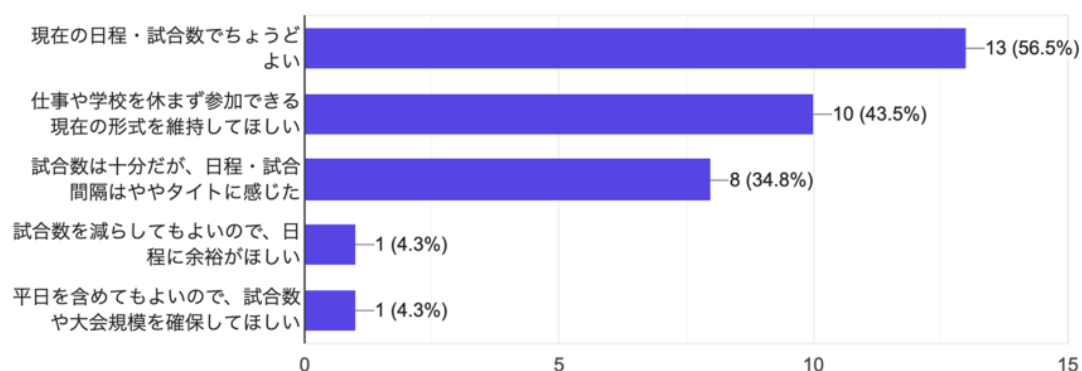


この結果から、男子の部全体としては、参加選手から非常に高い満足度が得られたと評価できる。

4-2. 大会日程・試合数に関する評価

大会日程・試合数に関しては、「現在の日程・試合数でちょうどよい」が13件、「仕事や学校を休まず参加できる現在の形式を維持してほしい」が10件であった。

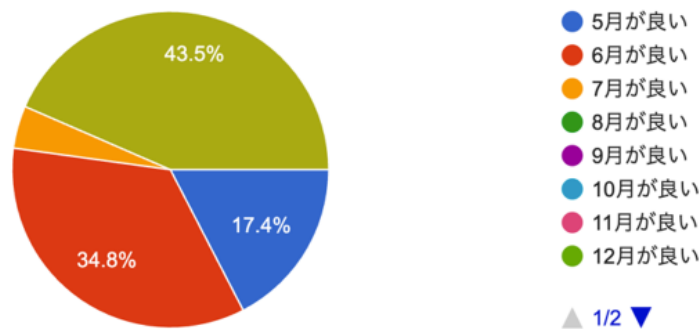
一方で、「試合数は十分だが、日程・試合間隔はややタイトに感じた」も8件あり、週末中心で参加しやすい日程は支持されているものの、試合間隔や全体日程のタイトさについては一定の負担感があることが示された。



来年度以降も、仕事や学校を休まず参加できる週末中心の開催を基本としつつ、試合数、開始時刻、終了時刻、レセプションとの接続について検討が必要である。

4-3. 開催時期に関する意向

開催時期については、「仕事・学校に影響しにくい週末開催であれば、時期にはこだわらない」が10件、「6月が良い」が8件、「5月が良い」が4件、「7月が良い」が1件であった。

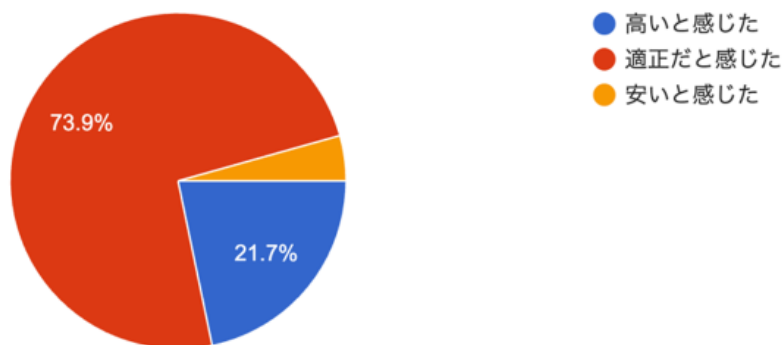


この結果から、開催月そのものよりも、仕事や学校を休まず参加できることが重視されていると考えられる。

一方で、5月開催を希望する回答も一定数あり、盛岡市アイスリンクのアイスメンテナンス後の氷の状態、日本選手権等の大会日程、参加チームの遠征計画との兼ね合いを踏まえ、開催時期を検討する必要がある。

4-4. 参加費に関する評価

参加費については、「適正だと感じた」が17件、「高いと感じた」が5件、「安いと感じた」が1件であった。



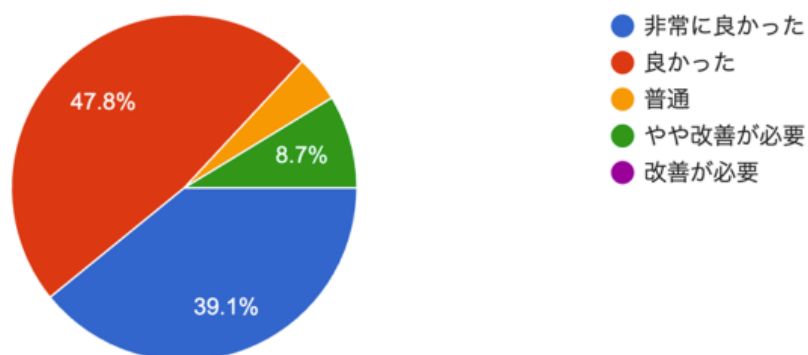
「適正」との回答が多数を占めており、参加選手から見た大会内容と参加費のバランスについては、一定の理解が得られたものと考えられる。

一方で、「高い」と感じた回答も5件あり、参加費に対する負担感が存在することも事実である。

この点については、来年度以降も大会内容、参加費、協賛金、賞金、レセプション、食事、配信、記録管理等の全体構造を踏まえながら、引き続き検討する必要がある。

4-5. 会場・氷の状態・競技環境に関する評価

会場・氷の状態・競技環境については、「非常に良かった」9件、「良かった」11件、「普通」1件、「やや改善が必要」2件であった。

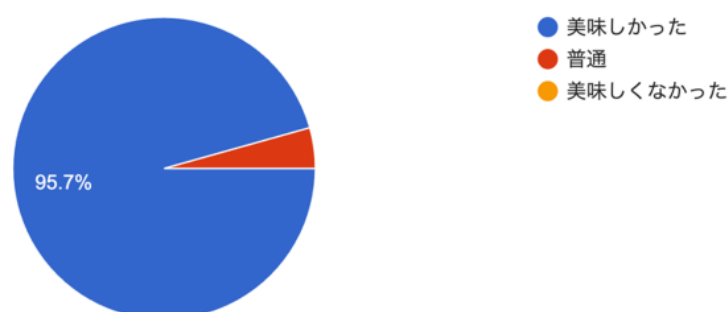


「非常に良かった」および「良かった」を合わせると20件であり、競技環境については概ね高評価であった。

一方で、改善が必要との回答もあり、氷の状態、試合間隔等について、具体的な改善点を確認していく必要がある。

4-6. お料理・お弁当に関する評価

お料理・お弁当については、「美味しかった」が22件、「普通」が1件であった。

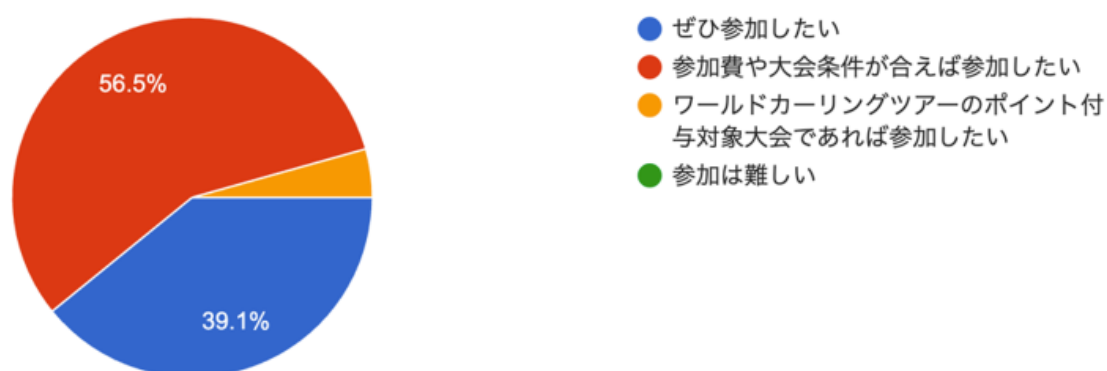


お料理・お弁当については、非常に高い評価が得られた。

本大会が競技だけでなく、盛岡らしい交流や食文化も含めて楽しんでもらう大会として設計されていることを踏まえると、食事やレセプションは本大会の大きな強みになっていると考えられる。

4-7. 来年度の参加意向

来年度の参加意向については、「参加費や大会条件が合えば参加したい」が13件、「ぜひ参加したい」が9件、「ワールドカーリングツアーのポイント付与対象大会であれば参加したい」が1件であった。



回答者全員が、条件付きも含めて来年度の参加に前向きであった。

ただし、「ぜひ参加したい」よりも「参加費や大会条件が合えば参加したい」が多いことから、来年度に向けては、開催日程、参加費、試合数、レセプション内容、WCT ポイント付与対象となるかどうかを早期に明示することが重要である。

5. 賞金大会としての考え方

本大会は、少しずつ時間をかけて地元企業・商店等の皆様のご理解とご協力を得ながら継続してきた大会である。

その中で、競技志向のチームにとって魅力のある大会となるよう、賞金額についても段階的に充実を図ってきた。

賞金を設けること自体が目的ではない。

本大会を、競技志向のチームが参加する価値のある大会として位置付け、盛岡に一定水準以上の競技環境をつくり、参加チームの強化につなげるための大会設計の一部として、賞金を設定しているものである。

また、優勝チームには、カナダ・ビクトリアカーリングクラブで開催される大会への参加権を付与している。

その意味でも、賞金は単なる副賞ではなく、次の競技機会や遠征機会につなげるための支援という側面も有している。

一方で、賞金大会であることについて、クラブ内外にさまざまな意見があることも踏まえる必要がある。

今後も、賞金額、参加費、協賛金、大会規模、参加チーム数、WCT ポイント付

与対象大会としての成立可能性を総合的に検討しながら、適切な大会設計を行う必要がある。

6. 参加費と財政構造に関する考え方

参加費については、負担感があることを事実として受け止める必要がある。

一方で、本大会は、競技参加のみを対象とした大会ではなく、レセプション、食事、賞金、ライブ配信、記録管理、表彰、参加チームとの交流機会等を含めたオールインクルーシブ型の大会として設計している。

今回のアンケートでは、参加費について「適正だと感じた」との回答が多数を占めた。

また、大会全体の満足度、お料理・お弁当、来年度の参加意向についても高い評価が得られており、現在の大会設計が参加選手に一定程度受け入れられていることが確認できた。

ただし、昨今の物価上昇、人件費・施設使用料・食事関連経費等の上昇に加え、盛岡・岩手の地域経済の規模を踏まえると、現行の大会内容を維持したまま参加費を大きく引き下げることが容易ではない。

現行水準の競技環境、レセプション、食事、賞金、配信・記録管理等を維持しながら参加費負担の軽減を図るためには、概算ではあるが、少なくとも 50 万円程度の追加的な協賛金・支援金の確保が必要になると考えられる。

したがって、来年度以降の課題は、単に参加費を下げるかどうか、賞金を維持するかどうかという二者択一ではない。

競技大会としての質、参加者の満足度、地元企業等からの支援、実行委員会の運営負担、参加費負担のバランスをどのように取るかが重要である。

7. 今大会の成果

今大会の成果としては、以下の点が挙げられる。

第一に、第 10 回大会として男子の部を開催し、6 チーム総当たり戦として全日程を完遂できたことである。WCT ポイント付与対象大会としては成立しなかったものの、参加チームの理解と協力を得て、競技機会を確保することができた。

第二に、参加選手から高い満足度が得られたことである。大会全体の満足度は、回答者全員が「大変満足」または「満足」と回答しており、大会全体としては高く評価された。

第三に、料理・弁当、レセプションを含めた大会設計が高く評価されたことである。競技だけではなく、盛岡らしい交流や食文化を含めた大会のあり方

は、本大会の特徴であり、今後も大切にすべき強みである。また、スポンサーである芽吹き屋様からは、大会終了後、店舗にも多数の来店があったとの報告をいただいた。参加選手が盛岡滞在中や帰路において、スポンサー店舗を利用した可能性があり、本大会が単に競技会として完結するだけではなく、地元企業・商店等との接点を生み出す機会にもなっていることが確認された。このことは、レセプションや食事、地元企業との連携を含めた大会設計が、参加者の満足度向上だけでなく、スポンサー企業への実際の来店・認知にもつながり得ることを示すものと考えられる。今後も、競技大会としての質を高めるとともに、参加チームと地域の事業者を自然につなぐ大会運営を意識していく必要がある。

第四に、ライブ配信、SNS、ホームページによる情報発信を行い、大会の可視化を進めたことである。今大会では、YouTube ライブ配信を2日間実施し、総視聴回数は1,057回、インプレッション数は3.3万回であった。視聴者の性別は女性49.4%、男性50.6%とほぼ均衡しており、年齢層では18～24歳が14.1%、45～54歳が76.4%を占めた。また、視聴デバイスはパソコンからの視聴が56%であった。これらの数値については、同規模の地方カーリング大会に関する比較可能な公開指標が乏しいため、客観的なベンチマークによる評価は難しい。しかし、総視聴回数1,000回超、インプレッション3万回超という実績は、参加選手・家族・関係者にとどまらず、一定の外部視聴や大会情報の露出があったことを示すものと考えられる。また、男女比がほぼ均衡していること、18～24歳の若年層にも一定程度届いていること、パソコンからの視聴が過半数であったことから、単なる短時間の流し見だけではなく、競技内容や大会の進行を確認する視聴も一定程度あったものと推察される。機材や通信環境には課題があったものの、試合経過、最終結果、写真、記録等を継続的に発信したことにより、大会の透明性、発信力、スポンサー露出を高めることができた。今後は、ライブ配信を単なる付随的な取組ではなく、大会価値を高める情報発信手段の一つとして位置付け、通信環境、機材、人員体制の安定化を図る必要がある。なお、視聴実績の評価については、同規模大会との比較可能な公開指標が乏しいため、一般的な動画配信指標の解釈に加え、複数の生成AIによる参考分析も踏まえて整理した。

第五に、アンケートを通じて、参加選手から大会運営に関する具体的な評価を得られたことである。今後の大会改善に向けた基礎資料として活用できる。

第六に、荒天・災害等への対応方針および情報公開・SNS等対応方針の整備につながったことである。今大会では、男子の部開催直前および大会2日目に地震が発生し、開催可否や安全確認、参加チームへの情報提供のあり方について、あらためて整理の必要性が確認された。また、YouTube ライブ配信や SNS

を通じた情報発信を行う中で、問い合わせ対応、情報公開の範囲、根拠に乏しい断定的な投稿への対応等について、事前に方針を定めておく必要性も明らかとなった。これらを踏まえ、荒天・災害・野生動物等発生時の対応方針、洪水・大雨対策アクションプラン、地震対策アクションプラン、クマ出没対策アクションプラン、参加費・キャンセル料・返金の取扱い、問い合わせ・情報公開・SNS 等対応方針を策定した。これにより、今後の大会運営において、開催可否判断、安全確認、参加チームへの連絡、返金等の取扱い、SNS 等での対応について、一定の判断基準を持つことができるようになった。

8. 今大会の課題

今大会の課題としては、以下の点が挙げられる。

第一に、WCT ポイント付与対象大会として成立させるためのチーム数確保である。一時は必要チーム数に到達したものの、最終的にはキャンセル等により要件を満たすことができなかった。来年度以降は、早期募集、出場意思確認、キャンセルリスクへの対応、補欠チームの確保等を検討する必要がある。

第二に、参加費負担感への対応である。アンケート上は「適正」との回答が多数であったが、「高い」と感じる回答も一定数存在した。参加費の内訳や大会内容を丁寧に説明するとともに、協賛金・支援金の拡充による参加費負担軽減の可能性を検討する必要がある。

第三に、試合数と日程のバランスである。週末中心で参加しやすい日程は評価されている一方で、試合間隔や日程のタイトさについては課題が残る。試合数、開始時刻、終了時刻、レセプションとの接続を含め、より無理のない日程設計を検討する必要がある。

第四に、運営負担の大きさである。競技運営、記録管理、配信、SNS、ホームページ、レセプション、スポンサー対応、表彰、アンケート集計等が重なり、実行委員会の負担は大きかった。大会を継続するためには、業務を属人的にせず、役割分担を明確化することが不可欠である。

第五に、情報発信と説明責任である。賞金、参加費、WCT ポイント付与対象の有無、大会形式等については、参加チームや関係者に対し、より早い段階で分かりやすく示す必要がある。

第六に、危機管理および情報発信対応の事前整備である。今大会では、開催直前および大会期間中に地震が発生し、災害発生時にどの段階で安全確認を行い、誰が開催可否を判断し、どのように参加チームへ連絡するかについて、あらかじめ整理しておく必要性が確認された。また、ライブ配信や SNS による情

報発信は大会の可視化に寄与する一方で、個別の問い合わせや、根拠に乏しい断定的な投稿に対して、どの範囲まで対応するかという課題も生じた。

大会運営中にその都度判断することは、配信・競技運営・安全管理に影響を及ぼす可能性がある。今後は、災害発生時の対応、開催可否判断、参加費・返金の取扱い、問い合わせ・SNS 対応について、事前に定めた方針に基づき、実行委員会内で共通認識を持って対応する必要がある。

9. 来年度以降に向けた対応方針

来年度以降に向けては、以下の対応を検討する必要がある。

- ① WCT ポイント付与対象大会として成立させるため、早期に参加チームを募集し、出場意思確認とキャンセルリスク対策を強化する。
- ② 大会の位置付けを、クラブ内行事ではなく、外部チームを迎える競技大会として明確化する。
- ③ 参加費、賞金、レセプション、食事、配信、記録管理等を含めた大会全体の費用構造を整理し、必要に応じて関係者に説明できるようにする。
- ④ 地元企業・商店等からの協賛・支援を拡充し、賞金の充実だけでなく、参加費負担の軽減にもつなげることを目指す。
- ⑤ 週末中心で参加しやすい日程を基本としつつ、試合間隔や終了時刻に配慮した日程設計を行う。
- ⑥ 競技運営、記録管理、広報配信、レセプション、会計・物品管理等の役割分担を明確化し、運営負担を分散する。
- ⑦ 女子の部および来年度大会に向け、今回のアンケート結果を踏まえた改善点を整理し、実行委員会内で共有する。
- ⑧ YouTube ライブ配信、公式 X、公式 Facebook、ホームページを大会の付加価値およびスポンサー露出の手段として位置付け、通信環境、配信機材、担当者、投稿ルール等を事前に整理する。
- ⑨ 荒天・災害・野生動物等発生時の対応方針、各種アクションプラン、問い合わせ・情報公開・SNS 等対応方針を大会前に実行委員会内で共有し、必要に応じて参加チームにも事前に周知する。
- ⑩ 地震、大雨、洪水、クマ出没等により大会開催や参加者の安全確保に影響が生じる可能性がある場合には、判断基準、連絡体制、情報発信手段を明確にし、実行委員会として一貫した対応を行う。
- ⑪ SNS、YouTube コメント、問い合わせ等への対応については、個別対応に過度に依存せず、公式ホームページ、公式 X、公式 Facebook 等を通じた情報公開を基本とし、必要に応じてコメント欄の整理等を行う。

10. 総括

今大会は、WCT ポイント付与対象大会としては成立しなかったものの、参加チームの理解と協力により、6 チーム総当たり戦として男子の部を開催し、第 10 回大会として全日程を完遂することができた。

参加選手アンケートでは、大会全体の満足度、お料理・お弁当、来年度の参加意向等について高い評価が得られた。さらに、スポンサー店舗への来店が確認されたことから、本大会は競技力向上や交流の場にとどまらず、参加チームと地域事業者との接点を生み出す機会にもなり得ることが示された。

このことから、競技と懇親を組み合わせた現在の大会設計は、参加選手から一定の評価を得ているものと考えられる。

また、YouTube ライブ配信、公式 X、公式 Facebook、ホームページを通じて、試合経過、最終結果、写真、記録等を発信したことにより、大会の可視化と情報発信を進めることができた。特に、YouTube ライブ配信では 2 日間で総視聴回数 1,057 回、インプレッション数 3.3 万回を記録しており、地方開催のカーリング大会として、一定の外部発信効果があったものと考えられる。

一方で、参加費の負担感、賞金大会としての位置付け、WCT ポイント付与対象大会としての成立、チーム数確保、運営負担の大きさ、配信体制の安定化については、来年度以降に向けて整理すべき重要な課題である。

さらに、今大会を通じて、災害発生時の対応、開催可否判断、問い合わせ・SNS 対応等について、事前に方針を定めておく必要性が具体的に確認された。

今後は、策定した各種方針・アクションプランを大会運営の基盤として位置付け、安全管理と情報発信の両面で、より安定した運営体制を整えていく必要がある。

本大会を継続していくためには、盛岡カーリングクラブ内での理解を得ながら、外部チームを迎える競技大会としての位置付けを明確にし、財政基盤、協賛体制、運営体制を整えていく必要がある。

特に、現行の大会内容を維持しながら参加費負担の軽減を図るためには、地元企業・商店等からのさらなる協賛・支援の拡充が不可欠である。

今後も、盛岡市アイスリンクメモリアルカップが、盛岡におけるカーリング競技の普及と強化、参加チームとの交流、地域からの発信の場として継続していけるよう、今回の総括を女子の部および来年度以降の大会運営改善につなげていきたい。